



新機能および変更された機能に関する情報

- [新機能および変更された機能に関する情報（1 ページ）](#)

新機能および変更された機能に関する情報

次の表は、この最新リリースまでの主な変更点の概要を示したものです。ただし、今リリースまでの変更点や新機能の一部は表に記載されていません。

表 1: フローティング L3Out の新機能と変更情報

Cisco APIC のリリースバージョン	特長	説明
5.2(4)	同じ L3Out の IPv4 および IPv6 フローティング SVI に同じカプセル化を使用するようサポートします。	同じ VMM ドメインを持つ IPv4 および IPv6 アドレスファミリに同じカプセル化を使用できます。VMM ドメインの展開中に、両方のアドレスファミリが使用可能な場合、両方が展開されます。
5.2(3)	さまざまな外部 VLAN カプセル化の使用のサポート。さまざまな外部カプセル化インスタンスのすべてが単一のレイヤ 2 ドメインの一部として扱われます。	単一の L3Out SVI/ブリッジ ドメインを異なるリーフスイッチに展開でき、各リーフスイッチが同じ SVI/ブリッジ ドメインに対して異なる VLAN カプセル化を使用するサポートが利用可能になりました。

Cisco APIC のリリースバージョン	特長	説明
5.2(1)	OSPF でサポートされるネクストホップ伝達と BGP で再配布される静的ルート	リリース 5.2(1) より前のリリースでは、ネクストホップ伝達は BGP でのみサポートされています。リリース 5.2(1) 以降のリリースでは、ネクストホップ伝達は、BGP で再配布される OSPF およびスタティックルートでもサポートされています。
	BGP で再配布されたルートの ACI ファブリックで伝達される複数のネクストホップのサポート	BGP で再配布されたルートの ACI ファブリックで伝達される複数のネクストホップのサポートが利用可能です。
5.0(1)	セカンダリ IP とフローティングセカンダリ IP	アンカーリーフノードの共通 IP としてセカンダリ IP を使用できます。フローティングセカンダリ IP は、同じフローティング SVI で追加のフローティング IP サブネットを有効にします。
	物理ドメイン	物理ドメインを使用すると、VMM ドメインを統合せずに仮想ルータでフローティング L3Out 機能を使用したり、L3Out 論理インターフェイスパス構成なしで物理ルータを使用したりできるようになります。
	ACI 内部エンドポイントからフローティング L3Out への最適ではないトラフィックの回避	Cisco ACI リリース 5.0(1) より前のリリースでは、外部ルータが非アンカーリーフノードに接続されている場合でも、ACI 内部エンドポイントからフローティング L3Out へのトラフィックは、アンカーリーフノードに送られた後、非アンカーリーフノードを通過して外部ルータに送られます。これは最適なトラフィックパスではありません。Cisco ACI リリース 5.0(1) 以降のリリースでは、ネクストホップ伝達と直接接続されたホストルートアドバタイジングを使用して、この最適ではないトラフィックパスを回避できます。
4.2(1)	VMware VDS Virtual Machine Manager (VMM) ドメインの外部ネットワーク接続のフローティングレイヤ 3 (L3Out)	新しいフローティング L3Out 機能を使用すると、論理インターフェイスを指定せずに L3Out を設定できます。これにより、ルーティングを必要とする仮想デバイス（たとえば、仮想ルータ）を 1 つのサーバーから別のサーバーに移動できます。その結果、仮想デバイスも 1 つのリーフスイッチから別のリーフスイッチに移動します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。